

新なにわ塾

大阪の 学校

いま むかし
今・昔

—その源流を探る—



府立大阪医学校（「大阪大学五十年史通史」より）

平成26年度
塾生募集

新なにわ塾
第7弾
大阪の足跡から学ぶ
文化再発見

明治以降の大阪にすぐれた人材を輩出し、産業の繁栄を支えてきた「学校」。
小学校、私塾、ミッション・スクール、旧制高等学校、旧制専門学校そして大学…。それぞれの変遷は日本全体の学校の歴史と重なるものである。大阪の「学校」から、日本の学校の「光と影」を考える。



心学明誠舎所蔵

第一講

10月3日(金) 19:00~20:30

石田梅岩と心学講舎

—いまに生きる経営倫理—

講師 辻本雅史



第一講

10月8日(水) 19:00~20:30

高等教育機関の変遷

旧制高等学校・旧制専門学校・大学

講師 山東 功



第二講

10月15日(水) 19:00~20:30

川口居留地から始まった
ミッション・スクールと女子教育

講師 西口 忠



第四講

10月22日(水) 19:00~20:30

町人が作った
小学校とその建築美

講師 川島智生



第五講

10月29日(水) 19:00~20:30

懐徳堂と泊園書院

—私塾が果たした役割と大学—

講師 藪田 貫

新なにわ塾 第7弾

大阪の 学校

5回連続講座



石田梅岩
(心学明誠舎所蔵)

第一講

10月3日(金) 19:00~20:30

石田梅岩と心学講舎 ——いまに生きる経営倫理——

石田梅岩は江戸時代中期の商人出身の思想家で、商人として生きる倫理を説いた。「正直」「先も立ち、我も立つ」など、CSRの原点とも言われるその思想は今や外国にも知られ、現代の関西の経済人に引き継がれている。石門心学がいかにかいまも経営倫理に示唆的であるか考えたい。

講師/辻本雅史(つじもと まさし)

国立台湾大学教授・京都大学名誉教授/京都大学文学部卒。同大学院教育学研究科博士課程退学。文学博士。京都大学教授を経て、2012年から現職。専門は教育史・日本思想史。主な著書に『学びの復権』『思想と教育のメディア史』『教育を「江戸」から考える』など。



第三講

10月15(水) 19:00~20:30

川口居留地から始まった ミッション・スクールと女子教育

大阪市西区にあった川口居留地では、宣教師たちが学校を開設し、キリスト教伝道とともに英語や音楽などを教えた。初期の女子教育の内容、女学生と彼女らを入学させた親たち……。手狭になった居留地を離れ、各地に移転しながら、大阪の女子教育を牽引してきた、ミッション・スクールに光を当てる。

講師/西口 忠(にしぐち ただし)

桃山学院史料室職員/川口居留地研究会事務局、日本聖公会歴史研究会会長、日本英学史学会副会長、『大阪春秋』編集委員。『桃山学院百年史』『桃山学院創立125周年記念誌』編集、『聖公会新聞』に「日本聖公会史そぞろ歩き」を共同執筆。



第二講

10月8日(水) 19:00~20:30

高等教育機関の変遷 旧制高等学校・旧制専門学校・大学

大阪には、大正時代から今につながる大阪の繁栄を支えた、旧制高等学校と旧制専門学校があった。これらの高等教育機関は、名前を変え、場所を変え、統合をし、現在の大学の姿に至っている。そこには、様々な社会の要請や背景がある。高等教育機関を軸に大阪の学校について語る。

講師/山東 功(さんとう いさお)

大阪府立大学21世紀科学研究機構教授、大学史編纂研究所所長/大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了、文学博士。大阪女子大学講師、大阪府立大学准教授を経て、2011年から現職。専門は日本語学、日本思想史、高等教育史。主な著書に『大学を学ぶ—大阪府立大学史への誘い—』『唱歌と国語』『日本語の観察者たち』など。



第四講

10月22日(水) 19:00~20:30

町人が作った 小学校とその建築美

明治時代初期、小学校は区ごとに町人が、土地家屋などを寄進し、建設費を調達して開校した。町民自治の伝統に基づいて運営された小学校の中には、鉄筋コンクリートに改築されて、凝ったデザインのものも生まれた。大阪の人たちが小学校を育てた歴史を、その建築物のたたずまいとともに振り返る。

講師/川島智生(かわしま ともお)

京都華頂大学教授/京都工芸繊維大学大学院博士課程修了・博士(学術)、関西の小学校建築史で博士号を取得。著作に『近代日本のビール醸造史と産業遺産』『近代奈良の建築家岩崎平太郎の仕事』、共著に『関西のモダンイズム建築』『民芸運動と建築』。季刊雑誌『文教施設』に小学校の建築史学を2004年より連載。



第五講

10月29日(水) 19:00~20:30

懐徳堂と泊園書院 ——私塾が果たした役割と大学——

大阪の戦前の人文系の学問を支えたのは、漢学を中心とする私塾であった。懐徳堂は江戸時代の学問所だが、大阪の政財界の支援を得て重建懐徳堂として大正期に再建された。また泊園書院は江戸後期から明治・大正期を通して漢学振興と漢詩文普及に貢献した。戦後、大学に引き継がれていくこれらの塾が、大阪に果たした役割を紐解く。

講師/藪田 貫(やぶた ゆたか)

関西大学文学部教授・同大学大阪都市遺産研究センター長/1971年大阪大学文学部卒業、同大学院修士課程・同大学助手・京都橘女子大学を経て1990年関西大学に教授として着任。専門は日本史、特に江戸時代(近世)の社会史・女性史。泊園記念会会長。主な著書に『男と女の近世史』『武士の町大阪』など。



申し込み方法

- 受講料 3000円(5回通し) ■募集定員 80名(先着順受付)
- 申込方法 往復はがき、またはインターネット(電子申請)で
[往復はがき] ①氏名(ふりがな) ②住所 ③電話番号を明記して〒540-8570(住所記載不要)府民お問合せセンター「新なにわ塾」係へ
[インターネット] 大阪府文化課ホームページ「新なにわ塾」から
<http://www.pref.osaka.lg.jp/bunka/news/shinnaniwa.html>
- 申込締切 9月25日(木)
- なお、定員に達しない場合は引続き受け付けます。下記までご連絡ください。
- 問合せ先 府民お問合せセンター「新なにわ塾」係
電話：06-6910-8001(平日9:00~18:00)

会場案内



大阪府立中之島図書館
別館2階 講義室
(大阪市北区中之島1-2-10)

大阪市営地下鉄・京阪電車京阪本線「淀屋橋」駅(1号出口)北東へ約350メートル
京阪電車中之島線「なにわ橋」駅(1番出口)西へ約200メートル
京阪電車中之島線「大江橋」駅(6番出口)東へ約300メートル